



美しい太平洋の風景を望みながらのんびり走る小田原「こまのり」



災害時の緊急輸送路としても機能する「東海自動車道」(平成20年代半ば竣工)



赤岡町に整備された人工の海岸(前)・鶴岡地区防災広場(広)



Kanon Winds

安心安全で 快適な まちづくり

平成四七年七月、土佐くろしお鉄道「こめん」をほぼ縦が開通し、市民生活の利便性は向上し、地域発展の基幹利便として後、その波及効果が高期待されています。車窓から雄大な太平洋を眺めることが、このまちの大きな特徴の一つです。

野市町では、生活環境整備を進み高知市(ベッドタウン)として展開して、ますますに広域交通網を整備し、まちの中心として、高知市と高知市を結ぶ高知西部自動車道は、緊急輸送路として、早期開通に向け、住民からも防災面でも役割も期待されています。

今後三〇年のうちに高い確率で発生するとされている南海地震では、特に沿岸部の津波被害が心配されており、赤岡町では、「松ヶ瀬地区津波避難広場」を整備し、夜間では中央公民館に案内の外付け避難階段を設置しています。それぞれの避難場所には非

鳥がめを題材にした野市小学校の「かごの陣」展の美術作品によって夏でも涼しい



常食や毛布を備蓄するなど、市民の生命と財産を守り被害を最小限に抑えるため、市内全域においてさまざまな災害予防策を講じているとともに、危機管理体制の確立を進めています。

一方、環境問題として地球規模での環境保全が大きな課題となっています。市では、「エコテックパーク」構想の実現をめざして、地球温暖化防止に取り組み、太陽光発電の普及を促す新エネルギーの導入、水給湯器(省エネ)などのエコ製品の導入をさらに進めることも、ごみ削減や再資源化を推進し、循環型社会の促進に努めています。

また市内の小学校では環境教育を通じて、自ら課題を見つけ、考え行動できる子どもを目標に取り組んでいます。また、市内(赤岡町)をはじめ、各地で環境保全への取り組みが行われていて、市民活動も盛んで、地域の人たちの手によって花が植えられ、今では名所となっている場所もあります。

野市町にある「あじき」街道は、上井川の土手にたまたま、粗大ゴミが捨てられているのを見つけた地元有志が、「花を植えたゴミの投棄がなくなるまで」との思いを練り上げたのがきっかけ。シーメンス全長約10m、高さ約10m、重量約10t、風速センサーが搭載された、新しい風車です。



この豊かな海、山川、田圃に恵まれた美しい自然の中で、子どもたちが引き継いでいくのに、今私たちは、この自然を取り組まなければならない。市民と行政が休まず、快で暮らしやすい住環境の整備を進めています。

地球温暖化防止のため自然エネルギーの導入が進む



びこの不法投棄防止まつり(前)に集まった野市町のあじき街道

風を感じて

香風の風もがたり.....